

コーペルは要り用筋で42万5,000円あたりでそれ以外は41万円、黄銅削粉も同様に要り用筋で40万5,000円あたりでそれ以外は38万円～39万円どころの値ごろとなり、並青銅鋳物削粉は50万5,000円～51万円どころ。

小口の市中相場(1トン前後)は、ピカ線65万5,000円～67万5,000円、上銅新くず62万円～64万円、普通上銅59万5,000円～61万5,000円、2号銅線58万5,000円～60万5,000円、並銅58万5,000円～60万5,000円、込銅(94～97%)56万円～58万5,000円、込銅(90～93%)53万5,000円～56万円、下銅49

万5,000円～53万5,000円、セパ45万円～47万円、コーペル34万5,000円～39万円、黄銅棒地34万円～38万5,000円、黄銅削粉33万5,000円～38万円、黄銅ラジエター28万6,000円～29万4,000円、交叉ラジエター34万3,000円～35万4,000円、黄銅鋳物36万1,000円～36万8,000円、同山送り22万3,000円～24万4,000円、上青銅鋳物51万2,000円～53万2,000円、並青銅鋳物49万2,000円～50万7,000円、上青銅鋳物削粉50万7,000円～52万7,000円、並青銅鋳物削粉48万2,000円～50万2,000円どころの様子。

## 米緩和終了後退とグラスベルク鉱山供給懸念で上昇 LME銅・NY銅共に続伸、NYカーブは7,400ドルへ

5日入電のLME銅相場はの前日比76ドル高の7,364ドルと続伸。米緩和早期終了の後退とグラスベルク鉱山の供給懸念で上昇。

NY銅相場は3.80セント高の336.50セントと続伸。米緩和終了の後退とグラスベルク鉱山の供給懸念で値を上げて引けた。

NYカーブは7,438.25～7,440.75ドルとなり、LME先物比44.50ドル高。7,400ドルへ上昇。

**錫は僚品高で上昇、2万1千回復**  
LME錫相場は120ドル高の2万1,020ドルと続伸。僚品高で上昇、2万1千ドルを回復。

**鉛は僚品高から値を上げる**  
LME鉛相場は24ドル高の2,225ドルと続伸。僚品高から値を上げて引けた。

**亜鉛は僚品高を受け上昇**  
LME亜鉛相場は13ドル高の1,914ドルと続伸。僚品高を受け上昇して引けた。

アルミは米緩和終了後退で上昇  
LMEアルミ相場は26.5ドル高の1,911ドルと続伸。米緩和早期終了後退で上昇。LMEアルミ合金は10ドル安の1,797ドル、北米特殊アルミ合金は変わらずの1,863ドル。

**ニッケルは僚品高から続伸**  
LMEニッケル相場は35ドル高の1万5,100ドルと続伸。僚品高から続伸して引けた。

**KLTM錫は11.5セント続落**  
採算値は1万8,000円高

KLTM錫は前日相場と比べ11.5セント安の64.796Mドルと続落。USDドルは変わらずの2万1,000ドルで出来高は30トン。Mドル/USDドルレート=3.0855とTTSレート101.25円で換算した採算値は1万8,000円高となる213万1,000円、諸掛込みの採算値は1万8,000円高となる229万1,000円となった。

## 橋本健一郎氏の5月銅スクラップレポート及び6月の見通し

■概況:前半は米ウォールストリートジャーナル誌でFRBの金融緩和縮小観測がでる、などのマイナス材料はあったものの、豪州準備銀行や韓国準備銀行の利下げによる世界的な過剰流動性資金の流入期待や米小売売上高が+0.1%と予測を上回った事による実体経済への期待から7196ドル(セツル)と前月最終価格より123ドル上げての前半締めとなった。

後半は独ZEW景況感指数が36.4と予測の40を下回った事、ユーロ・ドルが1.30を割り込んだ事、さらに1～3月期の独GDPが0.1と予測の

0.3を下回るなどマイナス材料もあったが、FRBバーナンキ議長が金融緩和継続したことによるドル安ユーロ高、5月の米ミシガン大消費者信頼感指数が07年依頼の高水準だったことによる米ファンダメンタルズの好調を受けて6月4日現在、前半締めから135ドル上昇の7331ドル 建値78万円のスタートとなった。

■前月の経済指標:日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比-6.5%の74万7730台であった。日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前年比-7.3%の21

万9099台。国土交通省統計によると新設住宅着工戸数は前年比+5.8%の7万7894戸であった。貿易関連指標を見ると、財務省貿易統計による輸出は、前年比で電気銅が-4.1%の4万4901t、スクラップが-11.7%の2万8275t。輸入は電気銅が前年比+1.7%5053t、スクラップ-26.7%の5170t。また前月の国内指標を見ると、日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば前年比-3.8%の6万5210t。日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によれば銅電線出荷量は前年比-2.9%の5万4400tであった。

■見通し:4月は米国金融緩和縮小観測と中国経済ファンダメンタルズに一喜一憂した月となった。米金融緩和縮小観測の報道がでる一方でFRBバーナンキ議長が緩和策の継続を発表、また英銀大手HSBC発表の5月の中国製造業購買担当者指数(PMI指数)が49.6と前月の50.4から低下、7カ月ぶりに景気判断の50を下回った。

自動車生産は前年比-6.5%の8カ月連続マイナス。国内向け生産が+1.5%と回復する一方輸出向け生産が-1.1%。販売の方はまたまた前年比割れの-7.3%。貨物車が+7%だったが乗用車が-9%だった。新設住宅着工戸数は先月に続き8カ月連続増加し前年比+3.9%(前年比(季節調整済み)+5.8%)の7万7894戸。今月も唯一堅調な住宅関連。アベノミクスによる長期金利の上昇に伴う住宅ローン金利など今後の動向に注目。伸銅品生産量は前年比-3.8%の6万5210tと6カ月連続マイナスと35年ぶりの低水準。銅電線出荷量は、前年比-2.9%の5万4400tと5カ月連続マイナス。このうち電力・建設、電販は+12、+3.6%の12カ月連続プラス。通信・自動車は-16、-18%の8カ月連続マイナス。引き続き自動車の減少幅の拡大が影響したとの見解。

輸出に関しては、電気銅輸出が前年比-4.1%の4万4901tと大幅悪化。銅スクラップは-11.7%の2万8275t。スクラップ発生不足による内需復活

や円安による日本製電気銅の需要回復。輸入は電気銅が+1.7%の5053t。スクラップは-26.7%の5170t。電気銅はスクラップ代替品のしての内需の復活で上昇スクラップは大幅な円安による割高感から大幅減少。

銅需給に関しては、以前住宅関連は新設住宅着工数が前年比+5.8%8カ月連続増加と堅調なもの、まだまだ自動車は生産が前年割れが続々先行きが不透明。5月の国内販売台数も-7.3%と改善はまだ見られない。ただ復興需要、増税前の駆け込み需要やアベノミクスによる公共事業新の増加なども期待でき今月からメーカーは買い気配になるのでは。

銅価格に関しては、対ドル・円でのユーロ価格と中国経済指標に一喜一憂する事が予測される。ユーロ価格に関してはECBが利下げに踏み切った事、債務縮小期限を延ばすなど金融緩和に舵を切り出していることからみればすでに緩和を始めている日米通貨よりは安くなる可能性が高く上値重い。また過剰流動性資金が今月も株・国債・通貨に流れおりコモディティ(商品)への流入がみられないことから上値は5月後半高値付近の7500ドルを予測。下値は中国の上海株が5週連続上昇していることや5月の中国当局発表の製造業購買担当者景況感指数(PMI)が50.8と先月の50.6から上昇し中国経済の底堅さを確認出来たとの判断から5月前半安値の6900ドルを予測。銅建値に関しては74-80万円程度と予測している。

	2月	3月	4月
生産台数	86万8194台	82万3145台	74万7730台
前年比	-16.1%	-16.4%	-6.5%
3月	4月	5月	
新規台数	42万69台	21万315台	21万9099台
前年比	-15.6%	+2%	-7.3%
2月	3月	4月	
新設住宅着工数	6万8969戸	7万1456戸	7万7894戸
前年比	+3%	+7.3%	+5.8%
輸入	2月	3月	4月
電気銅	1422t	1618t	5053t
前年比	+11.8%	-57.5%	+1.7%
スクラップ	5434t	5850t	5170t
前年比	-14%	-18.2%	-26.7%

輸出	2月	3月	4月
電気銅	5万6285t	7万1千t	4万4901t
前年比	+19.7%	+23%	-41%
スクラップ	2万3956t	3万845t	2万8275t
前年比	-9.5%	-14.2%	-11.7%

